

平成二十八年年度全日制（普通科及び看護科）一般入試（国語）

（答えは解答欄に記入）

受験番号
名前

〔一〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- ① ① いやはやへんな癖がついたものだ。このところ公共放送（国営放送ではない）のニュースキャスターの表情をつい食い入るように見てしまう。「局員」として、与えられた原稿をそのとおりに読むときのその心持ちをつい過度に^{※1}付度^{※1}してしまうのだ。他の番組を担当していた頃のあの^a屈託のない表情はどこに行つたのか。職業倫理という名の無感覚？ あるいは不本意？ それゆえの深い苦渋？ そんな疑問を抱きつつ見るのがしんどくなつて、結局は途中で電源を切つてしまふのだが。
- ② ちなみに元解説委員のあるキャスターは、おなじ局のバラエティー番組で、「いままで言えなかつたけれど」と断つたうえで、「いま岐路にある。わたしたち一人ひとりがんばることとして考える時だ」と、たまたま（？）口走つていた。
- ③ 十八世紀の哲学者、カントは、「^{※2}啓蒙^{※2}とは何か」という論考のなかで、理性の公的使用と私的使用ということについて述べていた。ある組織のなかで、それがたとえ「公職」といわれるものであつても、みずからにあてがわれた職務に忠実に、ということとは無批判的に、尽くすのは、みずからの理性を私的に使つていふことになる、と。逆に理性を公的に使用するというのは、人間性というものを宿す人類の一員、そういう意味での「個」として、発言し、行動することだといふのだ。そのような人類の一員であるということ、カントは「世界市民」と表現した。
- ④ それにしても「市民」とは、何を、あるいは誰をさすのだろう。「市民としての」を英語で言うと、シヴィルとなる。刑法に對する「民」法も、「公民」権も、「公務」員も、「文民」統制も、「市民」団体も、括弧でくくつた部分はみなシヴィルである。
- ⑤ （A）その「市民」とは具体的に誰のことか。このところの安全保障法制問題では、「市民の抗議の声」と言われる一方で、一つの野球場を埋めるくらいの人数で政治が動くなどということは民主主義の国ではあつてはならないと^{※3}嘯く^{※3}政治家もいる。市民とは民衆や国民全体のことなのか。（B）、自立的というか、相対的に強い政治意識をもつ人たちのことなのか。
- ⑥ たとえば市民会議、あるいは市民運動。ここでは少なくとも政治家や官僚、大企業の経営者などはメンバーからは外れる。政権に直結する、あるいは政治への圧力行使をなしうる組織とは関係をもたない人、そういう関係をいったん棚上げしている人が、「市民」会議のメンバーである。おなじように「市民」は、国民、地域住民といった「籍」で括られる人びとも、労働者や消費者として規定されるかぎりでの人びとも、区別される。
- ⑦ 「市民」は特定の誰かとして実体的に捉えられるものではない。さらに重要なのは、今は不在の人びと、つまりは未来の世代もまた、この「市民」に含まれるということだ。現在の社会的決定は必ずやその世代を巻き込むのだから。
- ⑧ その「未来の市民」にも思いをはせつつ、現在を生きている人びとがこののち無事生き延びるのにふさわしい社会のあり方を構想し、そのためにもっとも大事な課題は何かと考える、そういう探究を進んで担おうとする人びとこそ、「市民」なのであろう。組織、そのもつとも大きなものとしての国家にすべてを委託するのではなく、人びとがみずから問題解決のための^{※4}コンテキストを作つてゆこうとする、その運動の「主体」として想定されるのが「市民」なのであろう。カントが「理性の公的使用」といふことと言おうとしたのも、そういうことだとおもふ。

（中日新聞 鷺田清一「時のおもり」による）

○注 ①～⑧は段落符号である。

- ※1 付度||他人の気持ちをおしはかること。
 ※2 啓蒙||人々に正しい知識を与え、合理的な考え方をするように教え導くこと。
 ※3 嘯く||偉そうに大きな事をいう。
 ※4 コンテキスト||状況。背景。

問一 傍線部aの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問二 (A)と(B)にそれぞれあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア A では B それとも イ A しかし B いや
 ウ A とところで B そうではなく エ A そうすると B または

問三 傍線部①「いやはやへんな癖がついたものだ」について、筆者に「へんな癖がついた」のはなぜか。その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア 最近の公共放送のニュースに不満があるから。
 イ 最近のニュースキャスターが職業倫理に欠けていると感じたから。
 ウ ニュース番組とバラエティー番組での表情が、同じ人間でもあまりにも違うから。
 エ 最近、ニュースキャスターが読みたくないニュースを読んでいるのではないかと感じたから。

問四 筆者は第五段落より、「市民」とは具体的に誰かについて述べている。それを要約して、七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「実体的」、「未来の世代」、「探求」という三つのことばを使つて、「市民」とは……:」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使つてもよい。

※注 句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。文は一文でも、二文でもよい。

問五 次のアからエまでの文の中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 筆者は、個人的な意見の言えなくなったニュース番組より、個人的な意見が出せるバラエティー番組に期待をしている。

イ 十八世紀の哲学者であるカントは、公職の立場の人間であっても、個人的な意見を言ってもいいと言っている。

ウ 筆者は、現在政治に影響力のある人間だけでなく、過去に影響力のあった人間も含めて、「市民」会議のメンバーにはならないと言っている。

エ 十八世紀の哲学者であるカントは、与えられた職務に忠実に尽くすことを、「理性の公的使用」と呼び、立派な社会を作るのに重要なことだと述べている。

〇二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
雪が来る。

もうそこまでできている。あと十日もすれば北海から冬の雲がおし渡ってきて、この越後長岡の野も山も雪でうずめてしまうにちがいない。

(毎年のことだ)

まったく、毎年のことである。あきもせず季節はそれをくりかえしているし、人間も、雪の下で生きるための習慣をくりかえしている。

紅葉がおわろうとするこの季節、城下は冬支度で華やぐ。

(まったく、華やいでいやがる)

ひとびとの動きが、めまぐるしい。街路いっばいに薪売りの車がならぶし、家々の子どもは春までの野菜を一度に買いこみ、それを何十という樽に漬けてゆく。

相当な身分の武士までが、木にのぼっていた。木にわらを巻かねばならない。石燈籠にも巻き、寺などでは、こま犬にまでわらをかぶせた。城も、同様であった。

越後長岡は、牧野家七万四千石の城下である。天守閣はなかったが、お三階とよばれる本丸の楼閣が、市中のどこからでもみえた。それらの塀や建物の壁がむしろでつつまれ、ところどころに竹の押しぶちがあてられた。その雪よけの作業だけで、足軽や人夫などが日に五百人もはたらいっている。

継之助は、町をあるいていた。

(北国は、損だ)

とおもう。損である。冬も陽ざしの明るい西国ならばこういうむだな働きや費えは要らないであろう。北国では町中こうまで働いても、たかが雪をよけるだけのことであり、それによって一文の得にもならない。

が、この城下のひとびとは、(I) ように、その自然の圧力のなかでにぎにぎしく生きている。この冬支度のばかばかしいばかりのはしゃぎかたはどうであろう。

(鈍重で、折れ釘や石ころを呑めといわれればのんでしまう連中だ。のむ前はさすがにつらい。つい大酒をくらう。大酒で勢いをつけ、唄でもうたって騒ぎ、いざのみこんでしまつては、ぼろぼろ涙をながしている。——それが)

継之助は、つばをのんだ。

(越後長岡人さ)

継之助は途中、何人かの顔見知りの下級藩士に出あった。みなこの若者——といっても、部屋住みながら数えて三十二になるが——を(A) ように路傍に身を避け、小腰をかがめた。みな、視線をあわせない。それほどに継之助の眼光はつねにきらきらとしている。

胸中、つぶやきの多い男だが、しかしその歩きまはゆるしたものではない。※股立ちをとるように——とってはなすが——道路の中央をさつさと歩く。武士はりりしくあらねばならぬという気風が、この藩は他藩にもまして濃い。歩き方まで、しつけられている。たとえにわか雨がふつてきても、軒端へにげこむのは町人で、藩士は逃げず、雪駄をふところにほうりこみ、道の中央をためらいもなく歩いてゆく。

城の西側に出た。

柿川という小さな流れを越え、城の外郭のなかに入った。

そこに、藩の首席家老の稲垣平助の屋敷がある。継之助は、わらぶきの門をくぐり、

「おい、おい」

と、玄関わきで木の手入れをしていた稲垣家の下男をよび、ゆつくりと親指をつき出した。

「おいでかね」

家老の稲垣平助殿は在宅か、という意味である。もう、これで三日も同じ用件でかよっている。

「ああ、そうか」

① べつに落胆した顔でもない。当屋敷のあるじである首席家老稲垣平助は、親戚の法事に出かけているという。「待つさ」

継之助は、門長屋から季節はずれの涼み台をもち出し、そのうえに寝ころんだ。枕は、下男のを借りた。

稲垣家のひとびとは、この河井継之助がなぜ毎日屋敷にやってくるかを知っている。江戸や諸国へ私費で遊学したい、というのだから、藩ではゆるさない。五年前、それをゆるしたところ、江戸藩邸の役人が(B) ようなことばかりしでかした、という。歴とした藩士が、よそで事件をおこしたとき、苦情は藩へもちこまれる。どうもこまる、というのである。

^a キヤツカされたが、当の継之助はそれだけでひきさがらず、この国家老の屋敷に日参しては頼みこんでいる。昼どきになった。継之助はふところから竹ノ皮包みをとりだし、それをひろげた。

——弁当持ちだぜ。

庭木の冬支度をしている下男たちが、そつと袖をひきあつた。

奥の女どものあいだでも、それが話題になつてゐる。ただ稲垣家は、女たちのしつけのみごとな家だから、批評がましい蔭口などはいわず、「座敷にあがつていただかねば」ということが論議の中心だつた。いかに押しかけの客とはいえ、百石どりの歴とした土分の者に庭さきで食事をさせるなどということは、あつてよいことではない。結局、女中が使者に立つた。が、継之助のほうに、動かなかつた。

——いや、このままで。結構、というのである。

奥でも当惑し、せめて湯茶を、女中でなく一族の者が運ぼう、ということになつた。それでもつて処遇するしかない。

稲垣家のあるじ平助の妹に、お夕というむすめがいる。年頃のころに病んだために婚期を逸していたが、その容色は城下でも評判であつた。

②「……わたくしが」

と、お夕はその役を買つて出た。なにげなさを粧つていたが、家中の変りもので有名な河井継之助という男に興味がなかつたといへない。

台所へ出て茶の道具をえらび、いそいでお茶を淹れたつもりであつたが、そのときは庭がしずかになつてゐる。下男たちが、昼やすみをしているのであろう。

中庭をまわつて玄関の横に出たとき、どつと笑う声がきこえた。

みると、涼み台の上に継之助があぐらをかいてゐた。いまひとり台の上に下男の貞吉のぼり、膝小僧をそろえてむかいあつてゐる。

枕引きをしていた。

箱枕の両はしをつかみあい、たがいにひっぱりあうのである。

他は、それを見物していた。たちまち継之助が勝つた。

「では旦那サ、手前が」

と、宗十という下男が入れかわつた。宗十は氣おいこみ、四本指で立ちむかつたが、三本指の継之助にびつとひかれてしまう。

「おれに勝つたら、酒を一升か、まんじゅう二十買つてやる」

と継之助がいうと、みなわつと言つた。その歓声が、お夕の耳に入ったのである。

(こまる)

とおもつた。屋敷の風儀が、みだれるではないか。

(司馬遼太郎『峠』より)

※股立ち∥袴(はかま)の腰部の左右側面のあきを縫いとめたところ。

問一 傍線部aのカタカナを漢字で書きなさい。

問二 (A) (B) にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 驚く イ あわてる ウ おそれる エ はらはらす

問三 (I) にあてはまる最も適当なことばを次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 深海の魚がじつと暗闇で生きる

イ 深海の魚がことさらに水圧を感じない

ウ 北国の鳥がゆつくり春を待つ

エ 北国の鳥が南に向かつて旅立つ

問四 傍線部①「べつに落胆した顔でもない」について、その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 継之助はもともと気が長い人物だつたから。

イ 継之助自身が最初から長居をするつもりでいたから。

ウ 継之助は自分の気持ちを顔に出さない人物だつたから。

エ 首席の家老稲垣平助がいけないのはいつものことであつたから。

問五 傍線部②「……わたくしが」と、お夕はその役を買つて出た。ときのお夕の気持ちの説明としてふさわしくないものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 変わり者と言われる継之助を自分の眼で一度確かめたかつたから。

イ 変わり者と言われる継之助に稲垣家の面子にかけてばかにされてはならないという思いがあつたから。

ウ 変わり者と言われる継之助に稲垣家の面子にかけてばかにされてはならないという思いがあつたから。

問六 次のアからエまでの文の中から、継之助の説明として最も適切なものを選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 継之助は越後長岡の人たちみんなから嫌われている。

イ 継之助は変わり者で、武士らしいところがまったくない。

ウ 継之助はいろいろなことを言っているが、越後長岡に愛着がある。

エ 継之助は越後長岡の人たちをばかにしている、関わりを持ちたくないと思っている。

〔三〕次の漢文（書き下し文）を読んで、後の一から四までの間に答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

鄧哀王冲字は倉舒、武帝の子なり。少くして聡察岐嶷、五六歳にして成人のごとき智有り。

時に孫権曾て巨象を致す。太祖其の斤重を知らんと欲し、之を群下に訪ふも、①能く其の理を

出だす莫し。冲曰く、「象を大船の上に置いて、其の水痕の至る所に刻し、物を称りて以て

②之に載すれば、則ち校して③其れ知るべし」と。太祖大いに悦び、即ち施行す。

すなはち
重さを総計すると

沈んだ分の水面の痕跡

印を知んで
前もって重さが量つてある物

（李瀚『蒙求』による）

（注）○鄧哀王は領国の名。哀王は死後に贈られた名。

○武帝・太祖は魏の曹操のこと。

○岐嶷は才能・知識が特に優れていること。

○斤重は重さ。

問一 ①能く其の理を出だす莫し の現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 太祖の納得のいく理由がでてこなかった。

イ よく思われようと嘘をつく者はいなかった。

ウ 方法を考えつくことができる者がいなかった。

エ たくさんの答えから真実を見抜くことはできなかった。

問二 ②之がさしている内容として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 巨象 イ 大船 ウ 冲 エ 太祖

問三 ③其れがさしている内容を、五字以内で答えなさい。

問四 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 冲は、象を運ぶために水を使った。

イ 冲は、子どもとは思えない発言をした。

ウ 太祖は、重さなど知りたくなかった。

エ 太祖は、象を手に入れようと計画した。

〔四〕次の一、二の問いに答えなさい。

問一 次の①から③までの文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① セイケツ 感がある人。

② 寛大な対応に感謝する。

③ 年始の安売りに客がサットウする。

問二 次の文中の「④」にあてはまる最も適当なことばを、漢字二字で書きなさい。

あまりの緊張に、スピーチが支離「④」になる。

問三 旧暦で三月はなんと呼ばれているか。漢字で答えなさい。

平成二十八年 全日制 (普通科及び看護科) 一般入試 (国語) 解答用紙

受験番号
名前

問一	問四			問五
	「	と	は	70
	市			
	民			
	」			
問二				80

問一	問三	問六
	問二	
	A	
	問四	
	B	
	問五	

問一	問二	問三	問四

問一	問二	問三
①		
②		
③		